

平成28年度

事業報告書

社会福祉法人 古木会

## 平成 28 年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
理事長 木下 勝之

平成 27 年度の介護報酬改定以降、いずれの事業も厳しい経営状況が続いています。特に施設系及び通所施設系については、収支状況も悪く今後が心配されるところです。合わせて介護人材不足は解消されず 28 年度の事業計画にもあったように、職員不足による利用率の低下は大きく影響しています。29 年度はこの現状を踏まえ、施設運営の方向転換を行う必要があります。

### 1、(施設系)

特別養護老人ホームの運営については、長期入所及び短期入所の稼働率を高めるため、空きベッドが出ないような工夫等を行ってきました。世田谷区は介護保険制度が改正される以前から、要介護度が重度の方々が優先的に入所できるようポイントによるベッド管理を行ってきました。結果としてアルテンハイム入所者の平均要介護度は 4.2 前後となり、重介護状態となっています。27 年度と比較すると長期入所のベッド稼働率は大きく上がりましたが、重介護状態が増えたことで誤嚥性肺炎や膀胱炎などの感染症、及び食事摂取が困難になり老衰が進んだことによる入院等が多い状態になっています。そのためアルテンハイムの事業報告書にもあるように、目標稼働率(長期入所 99%)までは達していません。ショートステイ利用についても同様に、27 年度より大きく稼働率はあがりました。しかし、近隣に新しい施設ができ、ハード面についてはマイナス要因となるため、目標の稼働率には届いていません。それでも収入自体は大きく上がり、28 年度の収支は数字の上では黒字となっていますが、アルテンハイム職員の賞与を調整したためであり、実際は赤字を解消するところまでは至っていません。も少し稼働率が上がれば、賞与の調整等無く運営が可能のため、29 年度はさらなる稼働率の向上を目指していきます。

グループホームにおいては、中町グループホームが昨年同様収支がマイナス計上となっています。空きベッドがなかなか埋まらなかったのが 27 年度の原因ですが、満床になった 28 年度は 27 年度よりも収入は増えています。また、職員の定着率が低く、現在も派遣職員を使用しているため人件費が他のグループホームよりも大きくなっていることも、赤字の大きな原因となっています。29 年度はこの点を改善し、経営の健全化に努めてまいります。喜多見、烏山グループホームについては、空床が出てもすぐに埋まったため経営は安定しています。

28年度の事業計画では、アルテンハイムの給排水管の更新工事を予定していましたが、想定した以上の高額な費用見積もりとなり、計画の見直しを行いました。多額の費用をかけて改修するよりは、以前から懸案となっていた施設の建て替えを検討する方がいいのではという意見も多く、今後行政と相談しながらその時期、方法を検討してまいります。

## 2、(通所系サービスについて)

通所系サービスの利用者数の減少が続いています。27年度から、祖師谷ケアセンターでは経費節減のため鎌田ケアセンターにおいて一緒に給食を作ってもらおう等の工夫を行ってきました。費用の削減はできたものの、利用者数は伸びず結果として、28年度も大きく赤字となっています。近隣には多くの通所施設があり、祖師谷ケアセンターについては、利用者及びそのプランを担うケアマネジャーからは、選択肢に入っていない施設となっていることと分析されます。このままでの事業継続は困難なため、29年度に成城ケアセンターとの統合を検討しています。鎌田ケアセンターも大きな減収が続いています。近隣の社会福祉法人が運営している通所サービスはいずれも、収入は減少しているとの情報もあります。今後は運営時間の拡大や土日、祝祭日の営業など営利法人と同様の運営内容を考えざるを得ないと判断し、29年度中にサービス内容の変更を検討し実施していきます。

## 3、(訪問系サービスについて)

### 訪問介護ステーション

訪問介護ステーションにおいては、この数年徐々に収入の減少が続いていました。それに伴って収支も減少しています。アルテンハイムと合同で行った介護予防教室の収入の案分により、合計では若干黒字となりましたが28年度は、訪問介護事業単体ではとうとう赤字計上となっています。原因は、職員採用できていないことにつきます。登録ヘルパーの採用はもちろんのこと常勤職員や非常勤職員の採用ができていません。訪問介護サービス利用希望者は、減少していないので職員採用を早急に計画することが急務です。

### 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションの28年度の事業計画では、人材の確保を最優先目標にしていましたが、なかなか採用が困難で実現できていません。そのため収支は27年度と比較するとまずまずですが、全体の収入自体は減少しています。また、近隣には新規事業所もできており今後は利用者確保の心配が予想されます。当

法人とのケアマネジャーとの連携はもちろん、近隣のケアマネジャーへの広報活動を行いさらなる事業の安定を目指します。

#### 介護保険サービス

昨年は鎌田介護保険サービスにおいて、常勤職員の採用があり常勤職員が 2 名から 3 名に増えています。職員の努力の甲斐あって収支も良好でした。成城介護保険においてもサービス利用者の大きな落ち込みも無く、まずまず安定した運営ができています。

#### 4、地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）

平成 28 年度から全あんしんすこやかセンターにおいて、新たに相談拡充として障害者や虐待対応（こども・DV）の相談窓口としての業務が追加されました。同時に職員も新たな要員として各あんしんすこやかセンターで配置が義務付けられたため、職員採用が困難な一年でした。特に喜多見あんしんすこやかセンターは、駅から遠いなど通勤面でのハードルが高いため応募が少なく規程の職員配置に達するまで 29 年 4 月までかかっています。

運営については、委託内容に則り大きなトラブルも無く安定しています。

平成28年度事業報告

成城アルテンハイム

(1) 施設運営面 (実績)

1 利用者実績

① 長期利用者 (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成27年度	1,463	1,519	1,459	1,453	1,484	1,349
平成28年度	1,520	1,597	1,531	1,583	1,603	1,494
増減	+57	+78	+72	+130	+119	+145
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	1,496	1,389	1,444	1,484	1,419	1,495
平成28年度	1,537	1,557	1,549	1,564	1,406	1,617
増減	+41	+168	+105	+80	-13	+122

② 短期入所生活介護利用者 (延利用人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成27年度	167	161	183	181	186	191
平成28年度	207	233	254	236	222	225
増減	+40	+72	+71	+55	+36	+34
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	165	153	168	162	171	191
平成28年度	232	201	195	194	234	218
増減	+67	+48	+27	+32	+63	+27

③ 平成28年度延人数総数・稼働率

サービス種別	延人数 (総数)	前年度比較増減数	28年度稼働率
長期入所 (特養)	18,558 人	+1,104 人	94.2%
ショートステイ	2,651 人	+ 572 人	90.8%
計	21,209 人	+1,676 人	93.7%

2 運営面

平成27年4月介護保険制度改正に伴う介護報酬単価の改訂から厳しい収支状況が続いている1年ではあった。他方で特養・ショートステイの空床を抑え稼働率をあげるベッド管理は課題であり、特養待機者のショートステイ利用から、

特養待機者の退所者の発生後迅速に入所へ繋げることや緊急に必要なとなった方のショートステイの受け入れ等のベッド管理を行い、平成28年度については、実績表のとおり、長期入所・ショートステイあわせ延人数とし前年度とくらべ1,676人(稼働率93.7%)の増加に繋がった。

ショートステイにおいては、昨年度は、近隣の新設施設や宿泊デイ・グループホーム等のサービスへの流出が顕著であったことから、今年度は、利用しやすい環境ということで室料金の低額化なども検討はしてはいたが、想定以上に男性利用者を中心に新規利用者が増え、また特養待機者のショート利用も重なって前年度より稼働状況が増加となった。

しかし、この想定以上に上向きになったということは、逆を言えばショートステイ自体の安定性は無く、施設周囲(地域)の他事業所等のサービス状況(開設・サービス内容)や利用者ニーズによって利用数が浮き沈む可能性の高いサービスであることが伺える。

安定的に利用者確保するためには、特養との併設であるという利点から疾病や障害の重度の方の受入れというニーズや特養待機者に対するの待機場所としてショートステイをご利用いただくニーズを前面にして安定的なベッド管理をしていくことは来年度も行っていかなければならない。

利用者サービスの根幹となる介護・看護職員の人材不足については、看護職に関しては人的には確保されつつも、介護職にいたっては公休数も消化できない状況は依然と解消されていない。但し、一定期間在勤職員についての退職者は無く、新規採用した介護職員が定着せず退職する状況であった。介護職の人材不足は特養においては、要介護3~5の方の入所要件や既利用者の平均要介護度4.3という介護量の多い方へのサービス提供、看取り介護や稼働率の増加の中、利用者サービス需要量に対するサービス供給量(介護人材量)が伴っていないという深刻な状態にあることは否めない。

来年度においては、ベッド稼働率は今年度以上の増加を行い、収入を増やしていくことは勿論ではあるが、同時に運営の根幹となるサービスの提供者である介護職を確保・定着を図り運営していくことは来年度への引き続きの課題である。

### 3 介護・看護職の確保と定着化

今年度については、介護職においては人材確保(定着)ができなかったことは、前述のとおりである。

数名の新規採用はあったものの、その採用者自体が定着せずに退職されている。「思ったより介護業務が大変で自分にはできない」という理由が主であった。定着しない理由としては、特養の介護労働のイメージを安易に思い浮かべ、給与等の条件面で特養を選び実際に業務に就いた時にイメージと現実との格差が大きい

こと、また加えて介護職の需要が有料老人ホームやグループホームなどの開設などが増えるほどに高いことから、安易に転職できやすいことも一因と考えられる。

また応募についても紹介派遣業者を通じて紹介される傾向も強く、施設としたら紹介手数料の発生など施設側の負担も強いられるなど、応募や雇用が変化してきている。そのような状況であっても人材確保をして、同時に既従事者が離職しない就労環境を整えることも同時に行っていく。

#### 4 サービスの質の向上

##### 施設内外研修

世田谷区研修補助金を活用し、以下の法人研修(内部)・外部研修への参加等を行い、職員の知識・質の向上機会とした。

研修名	種類	研修日
法人事業所報告会・法人理念・倫理 研修	法人内	平成28年 6月16日
福祉施設職員ストレス対策 研修	外部講師	平成28年 7月11日
介護技術(移乗)研修 第1回	外部講師	平成28年 9月26日
介護技術(移乗)研修 第2回	外部講師	平成28年10月 3日
感染症予防 研修	法人内	平成28年12月19日
ターミナルケア 研修	外部講師	平成29年 1月10日
権利擁護・介護保険事故に関する 研修	外部講師	平成29年 3月 7日
高齢者に必要な栄養とチームで取組む排泄ケア	外部研修	平成29年 3月17日
コミュニケーション・虐待の芽 勉強会	施設内	平成29年 3月27日

#### 4 感染予防・健康管理(利用者・職員)

○利用者健康診断については、後期高齢者検診を活用し隣接病院の協力を得ながら健康診断を実施した。(年1回)

○職員健康診断については、隣接病院にて健康診断を実施し、夜勤に従事する職員については、加えて計年2回の健康診断を実施した。

○職員に対して、腰痛予防作業標準マニュアルの作成や周知、またKY(危険予知)活動に着手し、労働災害予防の取り組みを図った。

○感染症については、インフルエンザ予防接種を流行期前に、利用者には、本人もしくは家族の同意を得た方を対象に、また職員については費用を施設負担にて実施をした。

又、法人内研修において「感染症予防」研修開催、また来館者への感染予防に関する文書等の掲示による啓蒙活動や実践を行い、感染予防に努め、今年度においても、施設内でのインフルエンザやノロウイルス等の感染症の発症・蔓延は無く経過した。

## 5 その他

### ① 第三者評価受審

今年度も、東京都の補助金より第三者評価受審し、外部から施設の利用者サービス等についての評価、助言を受け、今後の施設としての改善努力事項が明確となった。

### ② ボランティアの受入れと活動について

世田谷区介護支援ボランティア制度の中では、平均実人員10名の受け入れを行い、洗濯ものたたみやクラブ補助のお手伝いをいただいた。

また聖母幼稚園父母会（シーツ交換）、もみじの会（傾聴ボランティア）、他の個人的なボランティア活動（書道・生花・折紙クラブ等の補助）により利用者生活面への支援をいただいた。

### ③ 成城地区文化祭への作品出品

今年度も成城地区文化祭が砧総合支所・成城ホールで開催され、成城ケアセンターとともに「折紙クラブ」「生花クラブ」「書道クラブ」の作品を出品した。地域の方へ施設を紹介する機会となり、また利用者にとっては作品作りの動機づけの一つにもなった。

### ④ 施設一部の解放

世田谷区による熱中症予防事業として今年度も施設のエントランスを利用し、地域の方の「一時お休み処(給水)」として地域貢献を行った。

又、平成28年2月からは、区からの依頼もあり通年高齢者のお休み処としてエントランスを開放するなど今年度も引き続き地域貢献を図っている

### ⑤ 体験実習等の受入れ

成城大学教員資格取得のための体験実習者(4名)や区立松沢中学校学生(3名)の福祉体験実習の受入れを実施した。利用者にとっても外部の若い世代と交流する機会となり生活の活性化にも繋がる機会となった。

### ⑥ 行事 (コンサート)

行事名	団体	開催日	参加数
合唱コンサート	城の音(成城大OB合唱団)	平成28年 6月19日	21名
年末ミニコンサート	サークルグループ	平成28年12月 3日	23名

両行事とも、開催前にポスターを掲示し家族参加も呼びかけ参加いただく。



⑦ 介護予防事業

今年度も、前後期に分け、地域高齢者に対してアルテンハイム相談員1名、ヘルパーステーション職員1名により、施設内食堂にて区事業の介護予防事業を行った。

⑧ 災害対策

大地震等・大災害時の世田谷区との二次避難所協定施設として連絡会への参加また図上訓練・炊き出し訓練等に参加する。

また、世田谷区防災無線交信訓練についても、定期訓練として1回/1月継続している。

法人内では、大災害時における事業継続計画（BCP）・施設においては、福祉施設での水害による入居者の方の人命災害を契機として、災害対策マニュアルの作成を行い、災害対策を講じている。

また、消防計画においても、大災害時の帰宅困難者対策項目を追加し整備し今後、備蓄品・量等も含め具体的な対策を図り、大災害時の対応策を図っていく。

# 平成 28 年度事業報告書

成城ケアセンター

## 概況

28 年度は、通所介護は利用定員 18 名の地域密着型通所介護へ移行し、利用定員と利用者のショートステイ等利用による日々の変動との調整が難しく、年間稼働率は地域密着型通所介護は、70%一日平均 12.7 名。目標に対して 85%（前年比 88%）認知症対応型通所介護は 60% 一日平均 7.2 名。目標の 121%（前年比 150%）の状況でした。新規利用者は 19 名、利用開始後に間もなく終了することも多く、利用者の入院や介護度が上がったのをきっかけに、施設入所されるなど利用が短期間となる方が増えています。介護報酬は、当初目標額に対して、地域密着型通所介護は 89%、認知症対応型通所介護では、121%の達成率でした。9 月には、世田谷区から実地指導が両サービスにあり、指摘事項について改善しました。職員体制面では、非常勤職員の退職や病欠療養など不足していますが、直雇用・派遣ともに採用が難しく、勤務調整が大変困難な状況が継続しています。

設備面では、送迎バス、1 階デイルームのエアコン、浴室給湯器等の設備等の老朽化により故障し更新交換等必要に応じて対処しました。

## 実施状況

### 地域密着型通所介護・介護予防通所介護（定員 18 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
実人数	45	44	45	44	42	43	42	40	39	39	39	40	502
延人数	341	313	361	361	306	300	313	275	273	270	291	318	3722
1日平均	13.6	13.6	13.9	14.4	11.8	12.5	12.5	11.5	11.9	11.7	12.7	12.2	12.7
稼働率(%)	76%	76%	77%	80%	65%	69%	70%	64%	66%	65%	70%	68%	70%

### 認知症対応型通所介護（定員 12 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243
実人数	12	13	15	14	17	17	17	17	17	17	19	19	194
延人数	111	141	152	138	152	158	147	151	140	139	155	165	1749
1日平均	5.6	7.4	6.9	6.9	6.9	7.9	7.4	7.5	7.4	7.3	7.8	7.5	7.2
稼働率(%)	46%	62%	58%	58%	58%	66%	61%	63%	61%	61%	65%	63%	60%

## 介護度別割合

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
通所・介護予防	0%	0%	24%	34%	26%	9%	7%
認知症対応型	0%	0%	16%	14%	32%	21%	17%

## 課題

職員の確保が必須の課題となっています。また古い送迎車両は故障等で修理回数が年々増加しているので、今後の送迎体制も含めて車両の検討していくことが必要となっている。

# 平成 28 年度事業報告書

成城介護保険サービス

## 概況

28 年度は介護保険制度改正があり、利用者、事業所に確認と説明等の対応を丁寧に行いました。職員体制は、専任常勤 4 名・非常勤 2 名・兼務 2 名の計 8 名、職員の異動や退職もなく安定した体制で運営できました。プラン作成数は、月 200 件の目標に対して、月平均 223 件、年間 2682 件。その内新規利用者は 82 名、目標数の 112%、前年比の 116% でした。介護報酬は当初目標額に対して、114%達成率、軽度者（要介護 1～2）の割合が増え一人単価は 11,776 円（-1,760 円）1 割以上減少しました。認定調査は、総数 366 件実施、前年より 42 件増え、前年比の 113%目標数を達成しました。9 月には世田谷区の実地指導があり、準備等の確認業務を行い指摘事項については改善しました。また、11 月には、認定調査について状況確認訪問調査、12 月には、ケアプラン点検と続き対応しました。1 月からは、予防給付の方のケアプランも受託し作成しています。

## 実施状況

プラン作成（目標 月 200 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	224	225	231	226	221	224	222	222	221	226 予防1	220 予防1	220 予防2	2682 予防4
新規者	18	7	8	4	5	4	4	6	6	8	6	6	82
達成率	112%	113%	116%	113%	111%	112%	111%	111%	111%	113%	110%	110%	112%

認定調査（目標 月 30 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	24	27	45	31	36	28	34	28	33	32	17	31	366
達成率	80%	90%	150%	103%	120%	93%	113%	93%	110%	107%	57%	103%	102%

年間平均介護度割合

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
29%	31%	22%	12%	6%

## 課題

29 年度には介護報酬改正があり、サービス事業所毎に確認等を行ってご利用者・ご家族に説明等行って丁寧な対応に努めます。新規プラン、認定調査等を積極的に受け入れ、法人内のサービス事業所、あんしんすこやかセンターとも連携し、今後も平均担当件数を維持し安定した運営を図ります。

# 平成 28 年度事業報告書

成城ヘルパーステーション

## 概況

28 年度は、訪問介護の予防給付が介護予防日常生活総合支援事業に移行され、介護予防・日常生活支援総合事業が開始となりました。年間利用者総数 523 名（前年比 97%）、訪問総数 6025 回（前年比 106%）、総訪問時間 5668 時間（前年比 93%）目標額に対しては、約 450 万円のマイナスとなり、86%の達成率でした。提供サービスは身体介護を中心とし、身体介護 71%、身体生活 23%、生活援助 3%、予防 3%と前年よりも身体介護割合が高くなった。訪問回数は増えましたが、30 分未満のサービスが全サービスの 1/4 を占め、サービス提供時間が減少した為、利用者の平均単価は、前年度より 2%減少し 49,163 円でした。職員体制では、非常勤の採用と退職が 1 名づつあり、登録ヘルパー3 名が退職し、管理者 1 名（兼務）・サービス提供責任者 2 名（1 名兼務）・非常勤 2 名・登録 5 名と減少した状況でのサービス提供となり、サービス量の維持が困難で厳しい運営状況となった。

## 実施状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者数	49	51	50	50	50	46	43	39	42	37	36	30	523
介護	48	50	49	49	49	45	41	36	39	34	33	27	500
予防	1	1	1	1	1								5
総合事業						1	2	3	3	3	3	3	18
訪問回数	512	569	577	549	556	527	515	501	477	508	364	370	6025
介護	508	565	572	546	552	523	508	491	460	494	348	353	5920
予防	4	4	5	3	4	4	7	10	17	14	16	17	105
訪問時間	502	537	519	507	514	491	496	479	453	432	360	378	5668
介護	498	533	514	504	510	487	489	469	436	418	344	361	5563
予防	4	4	5	3	4	4	7	10	17	14	16	17	105

## 年間介護度別利用者割合

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2%	2%	23%	31%	20%	15%	7%

## 課題

登録ヘルパーの高齢化による退職者が続き、サービス提供責任者・ヘルパーともに採用が困難で、サービスの提供量の維持が出来ない為に利用者数も年々低下しています。人材確保が必須となっています。

# 平成28年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
成城訪問看護ステーション

## はじめに

平成28年度の収支状況は、昨年同様黒字報告ができました。しかし、常勤職員2名体制での運営は27年度から解消されておらず、訪問訪問回数は減少しています。その結果総収入自体はも減少しています。近隣には、訪問看護ステーションの新規事業所も開設されており、今後の安定した事業継続を行うためには、常勤職員の採用が急務となっています。

## 事業内容

下記実績表にあるように、27年度と比較すると新規利用者は若干増加しているものの、利用者数合計は年間合計176人減となっています。訪問延べ回数は、介護保険利用者数が27年度に比べ1,424回減となっています。代わりに医療保険訪問延べ回数が27年度よりも500回増となり、末期癌患者の在宅末期医療の訪問回数が、27年度16回に比べ557回と大きく増加しています。末期癌の訪問については波がありますが、29年度も引き続き依頼があったらすぐに対応できるように運営していきます。医療・介護保険利用合計の訪問回数は、401回減ですが常勤・非常勤職員が減少した中での訪問のため、収支については反対に増加しています。反面、職員の負担は管理者1名と常勤職員1名での24時間365日対応のため、大きな負担となっています。29年5月に常勤職員1名が採用できましたが、引き続き職員増加を目指していきます。

## 28年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年新規	5	2	2	4	5	5	4	1	3	2	4	1	38
28年新規	3	3	5	6	2	4	5	4	2	4	1	1	40
27年利用者	101	102	99	99	103	102	103	104	102	99	100	100	1,214
28年利用者	86	89	92	94	88	92	85	88	86	86	76	76	1,038
27年訪問回数	478	454	534	524	509	462	493	450	460	424	491	527	5,806
28年訪問回数	435	393	397	360	398	375	371	354	344	330	297	328	4,382
27年医療	178	159	139	138	153	127	144	134	144	104	123	110	1,653
28年医療	126	137	177	200	191	161	176	171	184	189	197	226	2,135
27年末期癌	12	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	16
28年末期癌	0	12	42	61	53	24	34	48	64	64	78	77	557
27年総訪問数	668	613	673	662	666	589	637	584	604	528	614	637	7,475
28年総訪問数	561	542	616	621	642	560	581	573	592	583	572	631	7,074

# 平成 28 年度事業報告書

祖師谷ケアセンター

## 概況

28年度は介護保険法改正により、地域密着型通所介護へ移行し地域密着型サービスとしての運営となりました。また、要支援1、2の認定者に提供していた、介護予防通所サービスが予防給付サービスから外れ、新しい介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスとなりましたが、総合事業対象者はいませんでした。委託部分の削減（給食委託を廃止、送迎バスの委託時間短縮）は3年目が経過、成城・鎌田の両ケアセンター等の協力も得ながら運営しましたが、利用者の減少に歯止めをかけることが出来ず稼働率は低迷し赤字経営となった。年間利用者数は下半期に入所等で減少した為に前年度の70%、月平均利用者数は186名（上半期213名・下半期160名）でした。介護報酬は当初目標額の約85%の達成率でした。職員体制では退職者2名あり、看護職は派遣で補っています。世田谷区の受託事業では、世田谷区の新しい介護予防・日常生活支援総合事業の短期集中予防サービスとして介護予防筋力アップ教室は児童館での3クール実施となり、参加者総数は20名、送迎の該当者はいませんでした。配食サービスは、2年連続して減少し、利用者数は月平均7名弱と減少し、配食総数も1395食、前年の約85%となりました。区営高齢者住宅生活協力員業務については前年と同様でした。

## 実施状況

### 地域密着型通所介護・介護予防通所介護（定員18名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
実人数	23	24	27	25	24	22	23	20	19	19	21	21	268
延人数	199	204	226	232	218	199	200	154	140	146	140	177	2235
1日平均	8	8.9	8.7	9.3	8.4	8.3	8	6.4	6.1	6.4	6.1	6.8	7.6
稼働率(%)	44%	49%	48%	52%	47%	46%	44%	36%	34%	35%	34%	38%	42%

### 介護度別割合

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
通所・介護予防	0%	0.2%	22%	40%	28%	6%	4%

### 介護予防受託事業

介護予防筋力アップ教室	実施期間	参加人数
第1クール(祖師谷児童館)	5月9日～8月8日	7名
第2クール(祖師谷児童館)	9月5日～12月12日	6名
第3クール(祖師谷児童館)	12月19日～3月27日	7名

### 配食サービス事業（配達地域：祖師谷・成城・千歳台）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	7	7	7	7	7	7	8	7	7	6	6	6	82
配食数	150	127	120	119	120	116	136	124	113	84	82	104	1395

## 課題

29年度は送迎については利用者数の減少もあり、委託を止め軽自動車にて事業所職員で対応していますが、非常勤職員2名が退職が予定で、職員体制面も厳しくなり運営がより難しい状況となります。今後は成城ケアセンターとの一体化なども検討し、新たな体制を作りに向け努力します。

# 平成28年度 事業報告

鎌田ケアセンター

## 1 概況

今年度は、通所介護及び認知症対応型通所介護ともに稼働状況の改善、経営の安定を目標に取り組んでまいりましたが、両事業とも新規契約数が伸びず、目標稼働率を達成するには至りませんでした。結果、厳しい経営状況となっております。

職員体制が不安定な状況は年々深刻になってきており、日々の業務遂行に追われ新規利用者の受入れなどにも支障をきたしている点は否めません。特に、入浴などご利用者ニーズの高いサービスへの対応ができていないことが、稼働率減の大きな要因の一つになっているものと思われまます。

なお、世田谷区委託事業の配食サービスは、前年度とほぼ横ばいの利用率となっております。

## 2 実施状況

### (1) 介護報酬前年比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前年比 (%)	-10.2	-15.0	-13.3	-17.4	-8.1	-9.1	-12.7	-5.5	-3.4	0	-8.5	-12.4

### (2) 利用状況

〔通所介護・介護予防通所介護〕定員 25名/日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所	実人数	38	40	40	40	39	40	40	43	44	39	41	40
	延人数	344	303	356	337	357	329	334	343	342	309	327	441
	1日平均	13.8	13.2	13.7	13.5	13.7	13.7	13.4	14.3	14.9	13.4	14.2	16.3
予防	実人数	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	延人数	23	23	23	21	20	21	19	21	18	20	12	14
	1日平均	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8	0.9	0.8	0.9	0.5	0.5
稼働率/%		58.8	56.8	58.4	57.2	58.0	58.4	56.8	60.8	62.8	57.2	58.8	67.2
												平均稼働率	59.2

〔認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護〕定員 12名/日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
認知	実人数	11	11	11	9	9	8	7	7	7	10	10	10
	延人数	113	101	102	81	88	75	79	75	77	90	95	91
	1日平均	4.5	4.4	3.9	3.2	3.4	3.1	3.2	3.1	3.3	3.9	4.1	3.4
稼働率/%		37.5	36.6	32.5	26.6	28.3	25.8	26.6	25.8	27.5	32.5	34.1	28.3
												平均稼働率	30.1

### (3) 配食サービス状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実配食数/月	169	157	143	140	152	139	141	140	133	131	127	142
平均配食数/日	6.8	6.8	5.5	5.6	5.8	5.8	5.6	5.8	5.8	5.7	5.5	5.5
											前年比利用率	95.5%

(4) 他主な実施事業

- ◎世田谷区委託事業 ①シルバーピア生活協力員 ②配食サービス
- ◎地域交流事業 ①区民センター連携事業
  - ・企画委員会への出席（6回/年）
  - ・区民センター祭りへの参加（1回/年）
  - ・コンサート・映画会への参加（4回/年）
- ②地域児童等の交流活動
- ◎食事サービス活動推進の会運営への協力（会計監査等）

3 課題

- ①経営の安定
- ②職員配置の安定
- ③併設事業所との連携



# 平成28年度 事業報告

鎌田介護保険サービス

## 1 概況

今年度は、9月より職員1名が加わり3名体制での運営を行ってまいりました。

まずは計画作成件数の目標達成に努め、下半期最終月には3人体制ではありますが目標を達成することができました。29年度へ繋げることができたと思われまます。

運営面では、特定事業所集中減算割合において2法人が上限を超えたため、東京都への届け出を行っております。いずれも減算非該当となっております。

また、2月より新たに介護予防支援業務の委託をスタートさせ、地域包括支援センターと連携し、高齢者が自立ある在宅生活を送れるよう支援しております。

## 2 実施状況

【プラン作成数】 (目標 月70件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
月別件数	78	78	78	78	76	83	84	88	92	91	98	106	1030
(前年度)	60	67	66	68	67	64	67	69	74	74	73	80	829
達成率	111%	111%	111%	111%	109%	119%	120%	126%	131%	130%	140%	151%	123%

【介護度別割合】

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	支援
割合	31%	32%	15%	15%	5%	1%

【認定調査受託件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
件数	16	15	21	20	16	21	19	13	24	22	19	19	225

【特定事業所集中減算チェック状況】

紹介率最高法人（80%以上減算）					
後期（9月～2月）					
訪問介護	チームケアめぐみ	25.7%	通所リハ	杏霞苑	44.2%
訪問入浴	アサヒサンクリーン	50.0%	短期入所（特養）	喜多見ホーム	50.0%
訪問看護	ソフィア	38.4%	特定施設（有料）	ニチイホーム	100.0%
訪問リハ	武田整形外科	41.7%	福祉用具	パナソニック	16.1%
通所介護	鎌田ケア	23.4%	認知症通所	鎌田ケア	90.5%

## 3 課題

◎プラン作成件数の維持

◎併設事業所との連携

## 平成 28 年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
鳥山グループホームくつろぎ

### 概況

利用者は定員 9 名に変更ありませんが、年齢構成は 80 歳以上の利用者が 9 名中 6 名と高齢化しています。

職員関係では、年末に夜勤職員の退職がありましたが、新規採用もあり業務への影響も少なく経過しています。

世田谷区からの受託業務であるシルバーピア生活協力員業務は、10 月より北鳥山地域で新たに受託し、入居者の安否確認業務を行ないました。

### 利用者状況

1. 利用者構成は最高齢者が 97 歳で、80 歳以上が 6 名（90 歳代 3 名）と高齢化が進んでいますが、全員が室内での見守りや歩行支援で生活されており、グループ体操や散歩等を行ない介護予防に努めました。

共用型デイの利用については、利用希望者・実績はありませんでした。

#### 要介護度・年齢別構成（平成 29 年 3 月）

年齢・介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
70-79 歳		2	1		
80-84 歳			1		
85-89 歳	1				1
90-97 歳		2	1		

長期利用者 9 名中 女性 8 名、男性 1 名・平均年齢 85.3 歳（29 年 3 月末）

2. 季節行事等を実施しました。

4 月お花見外出・9 月敬老祝い会・12 月 Xmas 会・2 月節分豆まき等を開催しました。地域ボランティアやご家族の参加、協力も得て行ないました。

また利用者の誕生日には家庭的な雰囲気でお祝いし喜ばれました。

3. 利用者の健康管理は日々のバイタルチェックと、訪問医療（1 人月 2 回）と法人内訪問看護ステーション（毎週 1 回）の相談・協力の下に行い、発症時の早期対応と予防接種の実施により病状の重症化を防ぐことができました。また居室配膳など個別に対応を行なうことで、他利用者への感染を防ぐよう努めました。今年度は内科往診の他、歯科、整形外科、皮膚科等の外来受診の必要度が増えている現状です。

その他生活支援においては、いきいきと楽しく過ごしていただけるよう、音楽クラブ（毎週 2 回）の他、新たに音楽療法（音楽リハビリ～ミュージック

ボランティア協会講師依頼)を月2回実施しました。唱歌や懐メロの歌と共に身体を自然に動かす機会となり、リハビリ効果が期待されます。

また個別に外出(散歩・買物同行)を実施しました。日々の食材の買物同行や近隣公園への散歩の際は、地域住民や保育園児童との自然なふれあいの機会となり利用者の楽しみとなっています。

## 運営状況

1. 経営状況は、職員配置の効率化と利用者9名の継続利用(満室)によりほぼ安定していますが、区内に他事業所のグループホームが新規に開設されていることなどから、入所相談や入所申請・待機者数は減ってきており、今後のベッド管理が課題です。
2. 運営推進会議を、地域の住民(町会役員)、地域包括支援センター職員、利用者、家族の参加により、年6回、奇数月、第4土曜日の午後に開催しました。  
\*開催日(5/28・7/23・9/17・11/26・1/28・3/25)  
毎回、複数の入居者家族の出席があり、日頃の利用者支援の報告と、地域住民との情報交換の機会となっています。
3. 地域町会(烏山協和会)への定例会に管理者が参加し、地域住民との連絡と協力体制の維持に努めています。
4. 法人内研修と外部研修(区内グループホーム連絡会研修等)にも職員が参加しました。また世田谷区職員研修費助成事業を申請し、研修費用の助成を受け活用しました。\*参加研修(法人報告会・メンタルヘルス・介護技術・感染症予防・ターミナルケア・権利擁護他)
5. 福祉サービス第三者評価は今年度実施免除でしたが、自己評価により業務改善等検討を行ないました。29年度は外部機関に評価委託予定です。
6. 地域における防災訓練に職員が参加して、消防署指導による遠距離送水訓練等を実施し、緊急時の防火や避難誘導が円滑に対応できるように努めました。  
\*6/26 烏山地区防災訓練～烏山中学校 ・11/15 自衛消防訓練防火実務講習会～成城消防署 ・11/19 地域防災訓練、遠距離送水訓練～りんれい広場)
7. せたがや介護の日(11月13日)が開催され、グループホームPRのために職員が参加し協力しました。(於 烏山区民センター)

# 平成 28 年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
高齢者在宅復帰施設ほのぼの

## 概況

今年度は実員 5 名の利用者を受入れました。利用者の中には認知症や障害者手帳の対象者もあり、より個別の支援に配慮し対応しました。

また後期高齢者の利用割合も増え、服薬管理や医療面での緊急対応が必要とされ、併設事業所との協力体制と地域医療機関との連携により支援を行ないました。

### 1. 利用者状況

利用者は住居の立退きや在宅生活困難等を主な理由に入所利用されました。また利用者 5 名中 4 名の利用者は後期高齢者で、ADL の支援（排泄支援や入浴等の支援等）を行ないました。また夜間の転倒や熱発、インフルエンザの感染のため、医療機関への緊急受診などにも対応しました。

利用者の平均利用期間は 1 人 60 日と短期間で、退所後は養護ホームや都市型軽費ホームへの入所となっています。

### 2. 職員体制・研修

28 年度は一部職員の異動（退職、採用）がありましたが、業務への支障なく円滑に事業運営を行ないました。

職員の研修については、法人内研修に参加しスキルアップを図っています。参加研修（法人報告会・メンタルヘルス・感染症予防・認知症ケア・権利擁護等）

### 3. 利用状況に関する実績

#### (1) 年間入退所者数

新規入所者数・・・ 3 名

退所者数・・・ 3 名 利用実人数・・・ 5 名

※前年度からの利用継続者・・・ 2 名

#### (2) 月別利用者数 (実人数)

4月	2名	8月	0名	12月	2名
5月	1名	9月	0名	1月	2名
6月	1名	10月	0名	2月	2名
7月	0名	11月	1名	3月	2名

(月平均利用者 1.1 名)

(3) 年間利用率 13.2% (6 名定員として)

(4) 入所期間

6ヶ月未満：5名 6ヶ月～1年未満：0名 1年以上：0名

(5) 平均利用日数(1人あたり) 58.2日

(6) 年齢構成

65～69歳：1名 70～75歳：1名 76～79歳：0名 80～84歳：1名

85～89歳：2名 平均年齢：78.6歳 計5名

(7) 認知症等を有する利用者：1名

(8) 要介護度(実員5名中)

要支援(相当含む) 1名 要介護1 2名

(9) 退所後の行き先(年度内退所3名中)

養護老人ホーム . . . 1名

都市型軽費ホーム . . . 1名

在宅 . . . 1名

4. 主な事業実績の評価と改善の取り組み

(1) 行政との連携について

利用者の入所に際しては、高齢福祉課及び保健福祉課担当者からの情報を得て、入院中の利用者等は事前面接に赴き、医療関連の情報の収集と入所後の支援方法(服薬管理や身体状況の確認)について確認を行ないました。

また入所後も高齢福祉課への月次実績報告を提出する他、各担当保健福祉課への利用者の状況報告を随時に行い、健康状態の変化(不穏行動の有無や疾患の状態等)や退所後の生活支援に向けての情報(本人の意向、希望等)を提供しました。また年度末にはバルコニーの修繕工事の実施に伴い、世田谷区営繕課、高齢福祉課、工事施工業者と、工事期間中の随時の連絡、調整を行ないました。

(2) 利用者支援について

- ・利用者に対しては、入所後に支援方針を検討し、職員が統一した支援を行ないました。また入所中の利用者の行動や心境等については詳細に記録し、職員の申し送りを通して、支援方針の確認を行うとともに、改善すべき点があればその都度支援方針の見直しを行ないました。
- ・身体機能の保持を目的とし、入所後の利用者の状態と日常生活の自立度の経過を見て、個々の状態に応じて居室の掃除、洗濯、入浴等は自立できるように支援しました。但し、認知症や障害の状態により自力で行えない場合は、職員が代行しました。
- ・健康管理については、基本的には個々の主治医との連携を図る他、1日2回のバイタルチェックを実施し、症状により救急時には地域の医療機関への受診同行を行ないました。症状等の変化についての対応は、区担当者や訪問看護師、又は訪問診療の協力も得て体調の維持管理に努めました。

- 併設事業所で行っている音楽クラブの他、音楽療法（音楽リハビリ）を導入し、心身の健康増進のために利用者にも参加を勧めました。また季節の行事への参加（任意）を促し、孤立防止や精神的な安定が図れるよう支援しました。  
\*季節行事（4月花見外出・9月敬老祝い会・12月Xmas会等）
- 退所時には利用者満足度調査を実施し、事業運営やサービス内容の参考としています。
- 前年度に改修工事が実施された結果、浴室の改修やLED照明への転換などにより室内照明が明るくなり、空調等設備面でもより快適な住居環境となりました。

### （3）安全面・衛生面について

- 併設事業所、及び地域町会・消防署合同の防災訓練に職員が参加しました。  
\*（6/26 烏山地区防災訓練～烏山中学校 11/15 自衛消防訓練防火実務講習会～成城消防署 11/19 地域防災訓練・遠距離送水訓練～りんれい広場）
- 法人内安全衛生委員会が毎月開催され、管理者が参加しました。
- 施設の維持管理については、世田谷区と連携の下、保守・点検を行いました。専門知識が必要な部分については、下記業者に再委託しました。

点検内容（委託業者）	・実施回数（実施日）
消防設備点検（中央報知機）	・年2回（7/14 2/23）
昇降機設備点検（東芝エレベーター）	・年4回（6/9 9/8 12/8 3/9）
※3/9 法定点検実施 ※遠隔監視メンテナンス毎月実施 異常なし	
館内床清掃（キングランメディケア）	・年3回（7/22 11/4 3/22）
庭木剪定～ネズミモチの木、欒他（青山造園）	・年1回（10/31）

- インフルエンザやノロウィルスの発生の多い時期に先立ち、法人内研修で感染症予防対策研修を実施し、職員への周知を行ないました。  
また職員も感染予防のためインフルエンザ予防接種を実施しました。

## 5. 次年度への課題

利用者は後期高齢者や認知症・障害の状態等により、個別の対応が必要になってきているため、精神面でのフォローと身体面での安全確認を随時行ないました。今後も認知症等の周辺症状への対応（緊急時の連絡、対応法）や救急時の医療連携についても迅速に対応できるような体制づくりを検討していきます。

# 平成28年度 事業報告

中町グループホーム ふるさと

## 1 概況

今年度は、経営の安定を第一目標に取り組んでまいりました。

空床率は法人内事業所の協力などもあり、前年に比べ大幅に低減し、ベッド稼働状況は通年を通して安定させることができました。

一方で、職員体制が安定しないことで間接雇用（派遣）に依存せざるを得ない状況が続いたことで、収支バランスが崩れ、結果、経営の健全化という点では達成できませんでした。

運営面では、職員体制の不安定化やご利用者の重度化により積極的な活動・支援が難しい状況にありますが、世田谷区助成を受け第三者評価受審や研修受講できたこと、さらには区実地指導も行われたことで、一定のサービスの質の維持や健全な運営が確保できたものと思われま

## 2 入居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1F (1ユニット)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
2F (2ユニット)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
3F (3ユニット)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
入居者総数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
稼働状況 (%)	94.6	100.0	100.0	100.0	98.6	99.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
新規入居者数	1					1						
退居者数					1							
					(死去)							

	平均介護度	平均年齢	最高年齢	最低年齢
全体	2.9	86.4		
1F	2.6	84.8	91	77
2F	3.2	85.3	95	73
3F	3.0	89.0	94	82

(H29.3状況)

## 3 利用者状況

各ユニットともに重度化が進んできております。そのため日常介護の比重が増し、積極的な活動・支援が難し状況になってきております。

あるユニットでは、疥癬が発症しましたが、蔓延防止に努め、他ユニットへの拡大はありませんでした。他、インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症発症はありませんでした。

又、ご家族の強いご要望により身体拘束の事例がありましたが、適切な手順を踏み一定期間で終了しております。

## 4 運営状況

### (1) ご利用者関係

- ①日々の作業を通して、役割意識を高め自立支援につながるよう努めております。
- ②レクリエーション：音楽リハビリ・体操・散歩・音楽鑑賞など実施  
他、個人で、囲碁（ボラ）利用
- ③季節行事：花見外出・花火観賞・敬老会（食事会）等の実施
- ④施設外活動として、近隣の散策等、日々積極的に外出支援に努めております。
- ⑤通年をと通して誕生会実施
- ⑥外食・外注食実施（うなぎ、寿司等）

### (2) 地域交流

- ①日々の外出活動等を通して、挨拶を交わすなど、交流は図られています。
- ②町会行事への参加：子供祭り・盆踊り・防災訓練等の見学（参加）など。

### (3) 家族交流

- ①玉川花火大会観賞会を屋上にて開催するも天候不良のため自由参加となりましたが  
多くのご家族様が観賞されました。
- ②祝敬老としてご家族との食事会を始めて開催しました。

### (4) 他

- ①運営推進会議：6回実施  
（出席者）町内会会長・副会長・民生委員・あんしんすこやかセンター職員・ふるさと職員  
ご家族代表
- ②医療連携：夜間、休日等、ご利用者緊急時は訪問看護、在宅診療医と連絡・連携を図り、  
随時対応しております
- ③世田谷区の助成を受け、第三者評価受審、研修受講など行い、サービスの向上などに努  
めております。
- ④消防設備点検、防災訓練：2回/年実施
- ⑤全館床清掃、エアコン清掃、カーテンクリーニング：1回/年実施
- ⑥地域ケア会議出席

## 5 課題

- ◎事業・運営の安定



## 平成 28 年度 事業報告

社会福祉法人 古木会  
喜多見グループホーム かつらの木

### 概況

利用者状況は、前年度に空室が発生しましたが、6月に新規利用者が入居し、以降年度内は退居者もなく18名定員で経過しました。

しかし、区内のグループホーム（他事業所）の新規事業所が増えていることもあり、入居申請や待機者は減少しており、今後のベッド管理が課題です。職員体制等は変更なく、開所時に未経験であった職員も、業務経験と研修への参加で研鑽を積んでいます。

また経営状況は、居室の空床が長期化せず定員をほぼ維持できたため、収支は安定しています。

### 事業実施状況

1. 新規入居者の受入れを行ないました。要介護度は下記の通りです。

6月 1名（女性1名）

長期入所者 実員 18名（男性2名・女性16名） ※29年3月末現在

ユニット別 入居者要介護度内訳

		要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
1 F	男性	0	1	0	0	0	0	1
	女性	0	0	4	2	2	0	8
2 F	男性	0	0	0	0	1	0	1
	女性	0	2	2	1	2	1	8

年齢(95歳～72歳)平均年齢 87.5 歳 ※(女性 87.9 男性 84.5)

2. 毎日の日課支援として、午前中の近隣への散策と午後の食材の買物への同行支援を行ないました。その他今年度からは週1～2回程度近隣の店舗におやつを買物を目的とした同行支援も行なっています。また調理補助やおやつ作り等日常生活での家事なども、利用者の意欲を尊重しながら支援しています。
3. 利用者健康管理について  
医療面での支援は、みのわ内科による往診と山口歯科医院による訪問診療、法人内の成城訪問看護ステーションによる訪問指導などを受けて日々の健康管理に努めました。  
またインフルエンザやノロウィルスの発生の多い時期に先立ち、感染症予防対策研修を実施し、訪問看護の指導を受けて館内の衛生管理にも努めま

した。インフルエンザの発症が1名ありましたが、早期の医療対応によりすぐに軽快し、他利用者への感染はありませんでした。

4. 季節行事（4月お花見、8月地域夏祭り、9月敬老祝昼食会、12月クリスマス会、1月初詣、2月節分の会）を実施しました。

ご家族や地域住民のボランティアなどの協力により盛況に行なうことができました。また利用者の誕生日は家庭的な雰囲気でお祝いし喜ばれました。その他毎週専門の講師による音楽療法を行ない、利用者が楽しみながら認知症の進行予防や筋力低下を予防するよう支援を行ないました。

- 5 運営推進会議（原則偶数月）を年6回開催しました。

ご家族や地域住民の参加・協力（自治会役員、地域包括支援センター職員）

を得て実施しました。＊開催日 5月21日 6月18日 8月27日  
10月28日 12月17日 2月18日

- 6 職員研修は法人内研修、外部研修（区内グループホーム連絡会研修等）に積極的に参加しスキルアップを図りました。

＊参加研修（法人報告会・メンタルヘルス・介護技術・認知症ケア・感染症予防・権利擁護他）

また職員の研修参加費等については、世田谷区職員研修費等助成事業を申請し、助成を活用しました。

- 7 世田谷区の第三者評価受審費補助を受けて、福祉サービス第三者評価を受審しました。利用者サービスの現場視察（10月27日）及び家族へのアンケート調査の他、職員調査と利用者の聞きとり調査を行ないました。調査結果はインターネット上で公表しました。

＊（評価機関：日本ライフサポーター協会）

- 8 地域ボランティアの協力を得て地域交流を行ないました。

季節行事へのボランティアの協力の他、囲碁の個人対応が必要な余暇活動にも定期的な地域住民のご協力を頂いています

- 9 災害対策等緊急時への対応

防災避難訓練を利用者も参加して行い、また成城消防署での自衛消防訓練防火実務講習会にも防火管理者が参加し、利用者の緊急時の避難・誘導が円滑に対応できるように努めました。＊避難訓練（6月15日・11月26日）

※11/26は喜多見地区防災訓練にも職員が参加

＊防火実務講習会参加（11月15日成城消防署）

## 平成28年度 事業報告書

成城あんしんすこやかセンター  
 祖師谷あんしんすこやかセンター  
 喜多見あんしんすこやかセンター  
 梅丘あんしんすこやかセンター

### I、介護予防ケアマネジメント業務及び一般介護予防事業

<実施内容（委託内容）>

#### (1)一般介護予防事業

- ①介護予防を必要とする高齢者を把握するため、基本チェックリストを実施した。
- ②介護予防の普及啓発のため、はつらつ介護予防講座（1～2/月）やいきいき講座を実施した。
- ③その他、必要に応じて自主グループの運営や立ち上げの支援を行った。

#### (2)介護予防ケアマネジメント業務

- ①要支援認定者及び基本チェックリスト該当者に対し、必要なサービス（総合事業やインフォーマルサービス）の案内を行った。
- ②総合事業や予防給付の利用者に対するケアマネジメントや給付管理を行った。  
 ・今年度から総合事業が開始となり、介護保険の有効期間に合わせての切り替えとなり利用者への説明をしながら大きな混乱をすることなく移行することができた。ただし、新たにできた事業対象者への対応や請求業務が煩雑となり各あんしんすこやかセンターとの情報共有や世田谷区と連携をとりながら対応した。

	成城	祖師谷	喜多見	梅丘
いきいき講座 開催回数	4	3	3	7

#### 予防給付実施件数

予防給付	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
成城	112	101	91	82	79	77	71	61	66	47	40	33	860
祖師谷	115	109	104	98	92	87	83	84	78	74	70	63	1057
喜多見	114	99	92	86	77	77	73	69	66	61	59	56	929
梅丘	153	152	119	113	104	95	82	77	68	54	83	57	1157

## 介護予防ケアマネジメント

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
成城	5	21	24	32	45	49	59	63	72	73	84	89	616
祖師谷	14	21	25	28	36	45	54	58	62	64	65	72	544
喜多見	11	30	28	32	51	59	56	63	72	65	67	79	613
梅丘	17	27	31	41	53	64	76	82	89	89	84	97	750

<あんしんすこやかセンター独自の実施内容や評価>

### ①成城あんしんすこやかセンター

有料老人ホームで始めた体操の会「9丁目介護予防の会」を毎月開催した。今後は、自主化に向けてとりこんでいきたい。また、閉じこもり予防として、地区社会福祉協議会と共催で成城スポット「よりそい」を年4回実施した。

### ②祖師谷あんしんすこやかセンター

社会福祉協議会の協力で、世田谷いきいき体操を行う自主グループの立ち上げ支援を行った。祖師谷地区の北部には集える場所もないため、今後も自主グループの立ち上げ等の支援を行っていく。

### ③喜多見あんしんすこやかセンター

介護予防事業として、昨年度立ち上げた自主グループのいきいきダンベル体操グループへ継続の支援を行った。

### ④梅丘あんしんすこやかセンター

孤立しがちな地域があるため、その地域で自主グループ立ち上げを目指し、「音楽の会」をいきいき講座として開催し、支援を行った。総合事業では専門職訪問事業やささえあいサービスなど、多様なサービスへの利用につなぎ介護予防への支援を行った。

## Ⅱ、総合相談支援業務

<実施内容（委託内容）>

(1)総合相談として、来所（面接）や電話、訪問を通し、本人や家族、ケアマネジャーはもとより、病院や近隣住民を含めた地域の方などからの相談に対応している。相談内容は、介護に関する相談が多いが他にも医療に関すること、金銭管理など多岐にわたっている。

・7月からは相談の対象が高齢者だけでなく、子育て・障害・生活困窮など相談対象が拡充したため、職員が1名増員されたとともに、全職員が相談対応できるように研修を受け、体制を整えた。

・まちづくりセンターと社会福祉協議会と三者が一体となり、相談の拡充にあわせ7月から福祉の相談窓口としての業務をスタートさせた。地区の福祉の課題整理や社会資源の開発を行うため、毎月三者連携会議を開催し情報交換を行っている。

(2)地区の高齢者宅を戸別訪問して状況把握を行い、必要な情報提供をおこなった。（実態把握）

(3)支援が必要な方を把握し、地域での見守り体制ができるようにあんしんすこやかセンターの周知

を行い、地域のネットワークの構築や個別の見守りの体制（あんしん見守り事業）を推進した。

(4)区の配食サービスを利用する方に対し、配食の必要性を確認するため食の自立アセスメント（食アセス）を保健福祉課の依頼で実施した。

総合相談 件数		成城	祖師谷	喜多見	梅丘
	訪問		1 4 7 2	1 8 0 9	1 1 2 5
来所		8 9 6	1 1 8 6	6 8 5	8 1 3
電話他		1 9 4 5	3 0 4 8	2 1 1 1	2 0 8 8
合計		4 3 1 3	6 0 4 3	3 9 2 1	4 1 4 0
相談拡充分（再掲）		1 0	6 2	1 7	6 4
実態把握実施件数		1 1 4 5	1 4 6 5	9 3 3	1 0 3 4
（目標）		6 5 0	8 0 0	9 0 0	6 5 0
あんしん見守り事業利用者		6	3	3	4
食のアセスメント実施件数		6	4	4	2 5

<あんしんすこやかセンター独自の実施内容や評価>

①成城あんしんすこやかセンター

啓発活動として町会長会議などの会議体への参加の他、成城の自治会報に毎月コラムを掲載した。また、実態把握で緊急時の連絡先などを記入する「緊急あんしんカード」を配布するとともに、マンションの管理人や商店へ情報共有に赴き、見守りネットワークの構築を図った。

②祖師谷あんしんすこやかセンター

高齢者の相談だけでなく、相談拡充分の障害等の相談も毎月 10 件台で推移している。地区の見守りネットワーク構築については、町会・自治会長会議や民生児童委員会、地区情報連絡会・防災塾・避難所運営組織訓練実行委員会等へ出席し、見守りネットワークの強化を図った。

③喜多見あんしんすこやかセンター

喜多見地区内で、地域で活動されている区民・医療関係者・介護保険事業所・社協・区職員で集まり、高齢者見守りネットワーク会議を 1 回行った。

④梅丘あんしんすこやかセンター

エレベーターがなく、高齢化している都営住宅や、高齢独居や高齢者のみ世帯など、計画的に訪問を実施した。継続的な見守りが必要な方もあり、フォローリストに上げている。「梅丘地区高齢者見守りネットの会」では、身元確認カード「かえるカード」を地域住民とともに作成した。

### Ⅲ、権利擁護業務

#### <実施内容（委託内容）>

##### (1)高齢者虐待への対応

①高齢者虐待の相談があった時は、速やかに保健福祉課と連携をとり対応を行った。

②高齢者虐待防止のため、高齢者に関わる人を対象に啓発を行った。

##### (2)成年後見制度等に関する対応

①成年後見制度等が必要と思われる方へ、申立の支援や情報の提供を行った。

②成年後見制度の理解を深めるため、啓発を行った。

#### <あんしんすこやかセンター独自の実施内容や評価>

##### ①成城あんしんすこやかセンター

虐待に関する相談は15件あり、4ケースについて高齢者虐待対応会議に出席、対応した。消費者被害の現状を高齢者の集まりで話をするなど、注意喚起をおこなった。

##### ②祖師谷あんしんすこやかセンター

高齢者虐待については、家族や近隣住民、ケアマネジャーからの相談30件があった。また成年後見制度や地域権利擁護事業の相談は延べ20件であった。

##### ③喜多見あんしんすこやかセンター

虐待に関する相談が45件あり、高齢者虐待対応会議に15回出席した。成年後見制度が必要と思われる方へ手続支援を1件行った。

##### ④梅丘あんしんすこやかセンター

高齢者虐待対応では14件相談があり、保健福祉課や民生委員等と会議を開催しながら対応を行った。また、成年後見センターより申立支援の依頼があったケースについては、制度利用に向けて支援し、その後もサポートを継続している。

### Ⅳ、包括的・継続的ケアマネジメント業務

#### <実施内容（委託内容）>

(1)支援が必要な高齢者に対し包括的かつ継続的な支援ができるように、医療・介護・福祉や地域など多職種での連携を図るために、地区包括ケア会議等を開催した他、退院時の支援を行った。

(2)地区のケアマネジャーに対し個別ケースの相談支援の他、事例検討会や研修会を開催した。10月からは、医療と福祉の連携を強化するため地区連携医事業が開始された。各地区で担当医師と連携をとり事業を展開している。

	成城	祖師谷	喜多見	梅丘
地区包括ケア会議 実施件数	20	39	22	20

<あんしんすこやかセンター独自の実施内容や評価>

①成城あんしんすこやかセンター

民生委員と個別ケースの情報共有の場として、2回に分け地域包括ケア会議を実施した。また、成城団地自治会、民生委員、住宅供給公社にケアマネジャーを加え、高齢者の多い成城団地の情報交換を兼ねた顔合わせ会を行った。

②祖師谷あんしんすこやかセンター

地区内の主任ケアマネジャーと連絡会を立ち上げ、多職種連携の事例検討や勉強会等の企画・実施を行なった。

③喜多見あんしんすこやかセンター

「認知症やその家族への支援を考える」をテーマに、自治会・民生委員・警察・薬局・JKK・区職員で話し合いを行った。また、水害指定区域のある砧あんすこと合同で、ケアマネジャー向けの会議を開催し、水害時の避難について議論した。

※成城、祖師谷、喜多見のあんしんすこやかセンターがある砧地域では、9月に医療と福祉の連携懇談会を開催。医師、歯科医師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、訪問看護の医療職種とケアマネジャーや介護サービス事業所、成年後見センター、社会福祉協議会などが参加し顔の見える関係作りを行った。また、3月には上記の職種に障害や子育てなどの関係機関に地域の住民を交えた顔の見える関係作りとしてご近所フォーラムを開催した。

④梅丘あんしんすこやかセンター

「梅丘地区福祉連携会議」を災害時の安否確認をテーマに開催し、地域住民や介護サービス事業者、ボランティア機関など様々な機関が参加し、今後の課題を共有することができた。

北沢地域合同で、地域のケアマネジャーのスキルアップを図るために、「リ・アセスメントシートによるケアプランの自己点検」を3件実施した。

## V、認知症ケアの推進

<事業計画（委託内容）>

(1)認知症と思われるが支援に結びついていない高齢者に対し看護師等を派遣する認知症初期集中支援チーム事業の対象者を選定し、事業に結びつけるとともに支援チームと連携し、対象者の支援を行っている。

(2)認知症の介護をしている家族に対する相談を受けるとともに、家族会を開催し支援を行った。

(3)認知症や認知症予防の普及啓発としてサポーター養成講座を開催した。

	成城	祖師谷	喜多見	梅丘
家族会開催回数 (単独のみ)	10	3	5	4
サポーター養成講座 開催件数	4	4	3	5

<あんしんすこやかセンター独自の実施内容や評価>

①成城あんしんすこやかセンター

NPO 法人語らいの家と共催で「認知症の人を支えるための家族相談会」を開催した。普及啓発では、新聞店などの他、地区の住民向けにサポーター養成講座を開催した。

②祖師谷あんしんすこやかセンター

もの忘れ相談窓口の周知は、地域行事参加時・サロンミニデイ訪問時、あんすこの広報紙で行った。認知症サポーター養成講座は、87人が受講した。

③喜多見あんしんすこやかセンター

認知症カフェが開設された為、区民やケアマネ等へ周知を図った。グループホームが8ヶ所あり、運営推進会議に25回出席した。

④梅丘あんしんすこやかセンター

認知症サポーター養成講座は、地域住民や区立世田谷中学校3年生全クラスへ実施した。

VI、その他の事業

<事業計画（委託内容）>

(1)住宅改修・福祉用具購入に関する相談

(2)介護保険申請・保健福祉サービスの申請受付

(3)区からの要請に基づく会議の出席

- ・介護予防地域支援課主催の会議（スキルアップ会議）
- ・管轄の保健福祉課が主催する地域ケア連絡会および地域版地域ケア会議
- ・高齢者虐待、成年後見制度、認知症、あんしん見守り事業、医療・介護の連携及び地域密着型サービス事業に関するもの等

		成城	祖師谷	喜多見	梅丘
介護保険 申請件数	新規	168	263	199	187
	更新	311	269	271	163
	区分変更	31	20	49	13
	合計	510	552	519	363
保健福祉サービスの 申請受付件数		52	70	90	41



## VII、質の向上

世田谷区からの委託業務を遂行するにあたり、各あんしんすこやかセンターで職員の定着を図るとともに、業務の質の向上に努めた。

### (1)研修の参加

- ・区や東京都の研修へ参加し、参加した職員から内容の伝達研修を行った。
- ・法人内のあんしんすこやかセンターで毎月会議を行い、情報の共有や研修の報告等を行った。

### (2)ミーティングの実施

- ・朝夕のミーティングで個別ケースの情報を共有することで、職員が代わっても円滑に対応することができた。
- ・困難ケースなど職員一人が抱え込まないよう複数の職員で対応するとともに、職場内でも職種の専門性を生かしてお互いがアドバイスを行った。

### (3)事故防止及び苦情対応

- ・申請受付について事故が起こらないように、二人で確認作業を行った。入力の間違えなどの事故が起きたときは、法人本部に報告し、あんしんすこやかセンターの会議でも共有し再発の防止に努めている。
- ・苦情については、法人本部や委託元である介護予防地域支援課に報告するとともに、関係機関と連携し迅速に対応した。